箕面一中同窓会報

発行所
箕面市新稲1110
箕面市立箕面第一中学校
同窓会
電話(0727)㉑2392
編集発行人 小菅淳平

櫟の便り

われわれの同窓会も新卒業生（十八期）を加えて約六千名を擁するにいたりました。これら同窓会員間のつながりを密にし、母校の現況をお伝えするべく会報第一号をお届けします。これを機会にみなさんの手で同窓会をさらに充実したものに育てていただきたいと思います。

もりたてよう同窓会

会報 待望の発刊

演壇

「櫟を仰いで想う」

校庭のけやきの緑ゆたかに
梢に光る理想の明星

この校歌が制定されてみると、なにかほのぼのとした、中学生時代の想い出がよみがえって来るではないか。楽しかった体育祭、文化祭。苦しかったマラソン大会、苦いおもいをした数々の試験、心を打ち込んだクラブ活動、等々。そして今並んでいる教室の机や椅子、種々な運動具、校庭の樹々に至るまで、私達の体臭がしみ込んでいる様に思える。それらの中に過去の自分の姿を見出し、時には微笑を誘われ、時にはかしくなったりもする。そしてはっとして現在の自分を見つめると、多忙な生活に追われてなにか一つの鋳型の様な物の中にはまり込んでいる自分に気付き、これではいけないと反省をうながされ元気づけられる。

我々をこうして何時までも温かく見守ってくれる母校、広い自然に囲まれた美しい我々の母校を休日などに一人静かに訪れるのも楽しい同窓会の一つではないだろうか。

けやきの樹は今日も昔と同じ様に、ゆったりとしかも堂々とした姿で、我々を見下ろしている。かつて私達が純真な気持で、真面目な態度で仰ぎ見た理想の明星を、今一度振返ってみてはどうだろう。（七期）久原敬吾

発刊のことば

会長 小菅淳平

皆様お元気でお過ごしのことと存じます。

美しい緑と清い空気に包まれたこの箕面の地で、人生の内で最も重要な多感な時代に、共に学び生活し得たことは、本当に恵まれた事だと思っています。各自が各自の選んだ道を歩んでふと過ぎ来し方を振返る時、それは無性に懐かしく、師や友や学び舎が甦って来ます。その様な気持を結び合わせるのが、同窓会の仕事と申せましょう。

会の活動も総会や名簿の発行、時には母校への義捐や社会事業への貢献等地道な活動を続けて来ました。この辺で我々同志を繋ぐいわば横糸が欲しい。それも形の上でなく血の通ったものにしたい。母校発展の様子も伝えたい。そんな気持から年一回の会報発行に踏切りました。大変な事ですがこれが本来の仕事では無いかと考えます。どしどしお便りや御意見をお寄せ戴くと同時にクラス会や連絡に大いに御利用願いたい。恩師や友達も追い追い登場されて充実したものになって行きましょう。折角やる以上は皆に役立つ様にしたいと思います。

会の仕事の中で一番困難なことは、名簿作製の折の住所調べと、会報を如何に正確に皆さんのお手元へ届けられるかという点です。住所は常に変わりますからその時点々々で正確につかみにくい。皆さんの御協力を待つ外有りません。御自分のあるいは親しい友人の住所が変ったら出来るだけ同窓会に御通知下さる様この機会に特にお願いします。（三期）

総会通知

左の如く同窓会の総会を開きます。お誘い合わせの上、是非御参集下さい。尚総会終了後、演劇観賞会を催しますので、ゆっくりと御観賞頂だきたいと思います。

日時　四月二十九日　午後一時より
場所　母校体育館
行事　総会（会務報告、その他）
懇談会（茶菓、運動具を準備致します）
演劇観賞会（一同窓生の同好サークルによる演劇）

◆演劇内容
田中千禾夫作　劇「笛」一幕
（一枚の宝くじをもとに展開される心理的喜劇です）

キャスト
伊作（父）国木松男
野枝（母）加納睦美
あさ（祖母）新田扶佐子
豊美（長男）豊辺正也
茂美（次男）藤村武夫
咲子（長女）食野妙子
鳥添（新聞記者）岡田保吉
浅尾（近所の人）明知年枝（母校四期生）

日本触媒化学工業株式会社本社演劇部

「同窓会報」の発刊を祝して

学校長 友広芳夫

今般同窓生諸君の総意により、又特に役員諸氏の御骨折によって待望久しい「箕面一中同窓会報」が発刊された事を心から御祝い申し上げます。

小学校時代はまだ自分が本当の自分ではありません。高校、大学時代又職業生活となると、人間が出来過ぎて、その生活態度の中には社会、外部に対する考慮、利害関係等々が大きくその社交生活の中に含まれ人間性の純粋性がその対人関係には見失われ勝ちと言っても過言ではありますまい。これは人生の複雑多様性をあらわして居るので、止むを得ないことであります。

ただ中学時代はこれらと異り、ようやく自我を確立し、しかも各個人の家庭の地位等にわずらわされる事無く、殆んど純粋に人間、自己自身としてそれを生活の中に交友の中に具現し得る懐しい世代であり我々がいつまでも中学時代を懐しみその時の交友を忘れ得ないゆえんのものであります。この中学時代の懐しさをお互いに形に迄発展させ、又その出発の中学生活の基礎を利用して、旧交を暖め、改めて今為る自らの位置をしみじみと振返って見る機会に恵まれなかったのでありますが、幸にこの会報の発行を見ました。皆さん、十二分にこの機関を利用して、旧交を暖め、改めて今為る自らの位置を

昭和39年度会計報告

（昭和40・3・31現在）

収　入		300,458
（内訳）前年度繰越金		163,782
十八期生入会金		111,000
名簿収入金		22,450
預金利息		3,226
支　出		24,380
（内訳）昭和39年度総会費		10,120
十八期生名簿印刷費		9,900
同窓会報編集会議費		4,360
差引残高（次年度繰越金）		276,078

ただし　この会報の印刷費として約40,000円　発送費として約50,000円を支出予定しております。

クラス会消息欄

期	組	最近開いた時期	連絡先
三	同期会	39年 大阪市東区法円坂町六	村田光俊
		法円坂住宅十号館	
		池田市中之島町十七	早川溶子（長尾）
四	C	38年 吹田市高野台B二号館一〇八	岡田保造
五	同期会		半林亨
		吹田市佐竹台二ノ四 B六号館二〇六	小菅徹二
六	C	39年 箕面市半町一六〇	佐藤昭夫
九	B	〃 稲二四三	西沢澄子
		〃 西小路一七〇	大住裕彦
十一	A	39年 〃 箕面六〇九	
	B	35年	
	C	37年 〃 百楽荘二ノ一五三	竹本義男
	D	39年 〃 桜井二六二	加藤周一郎
	E	37年 〃 新稲九七三	木下亨
	F	計画したがストで流会	
	G	37年 箕面市箕面四六〇	足立亘
	H	37年 〃 桜井三九一	仲洋二
	I	39年 〃 牧落六五〇	長谷川勤
十三	A	39年6月 〃 桜井一八四	小寺敏雀
	B	39年1月 〃 桜井四六一	上野斌
		〃 桜ケ丘七五五	相坂史子
	C	36年4月 〃 桜井三三二	畠中誠二郎
		〃 箕面六三〇	柊木玲子
	D	39年12月 〃 桜ケ丘一〇	吉弘のぶ
		〃 桜四八九	西山嘉樹
	E		

◆とりあえず調べのついた期のみ掲載しました。この他にも沢山クラス会をお持ちのことと思いますが、これを機会にどしどし開催されて、この欄を大いに御利用下さる様お願いします。（係）

窓

★昨年から本年にかけて企業界には不景気の嵐が吹きまくっている。山陽鋼をはじめとして中小企業の倒産続出は目をおおうばかりである。さぞかし、失業者が町に氾濫し、と思うとあにはからんや、人手不足は、これまた深刻な問題になりつつあり、求人の広告やポスターが目にちらつく。中卒者の初任給が一万三千円などと聞くと一昔前のサラリーマンは腰を抜かすかも知れない。★人手不足の中で最も問題なのは、中卒者と女子の高校卒業者だそうだ。いずれも進学者が高まり、少なくなった事情はわかるが、問題はむしろ彼等の職場への定着性にある。長くて一年、短かければ入った翌日、と職場を転々とし、その間の失業保険をかせぐタイプが増えていて、職安の窓口に来る顔ぶれは若くて元気な女性が大半を占めるとか★大学進学者の内の女子の比率が高くなったのも誠に喜こばしい限りであるが、これもよく聞いてみると学問への情熱などは、コレッポッチもなくて結婚の条件と考えての進学者が以外に多いとの事である。もっとも男子学生にしたって今時〇〇大学の××学部に入るまでは、てな豪傑はめったにお目に掛からんし、一期で法学部を受けた者が、二期で工学部をというのはざらで、私大などでは同じ大学の商、経、理社会など皆入ってどれにしようかと迷っている贅沢な奴も出てくる。又、入ってからも勉強もある程度、麻雀もボーリングも、スキーも旅行もと多角化された才能を養い、就職も安定した一流を決めるとまず人生の目的の半ばは完成したとなる。★何も自分の職場を天職として死守せよという意志はないが、しかし、若人のもつ情熱や意気を自らの仕事にそそぐ事がそんなにつまらないことなのだろうか。

座談会 世界をめぐって

（写真右から岡田・井上・半林・西沢の諸氏）

司会　植山先生　池田先生

（司）学校創立20年でその間母校を巣立たれた多くの卒業生は各方面で活躍しておられる。
その中で今回は世界各国を廻って来られた四人の方にお集まりいただき、色々お話を聞こうと思います。最初に各自行かれた国の印象と言った所からお願いします。

◆各国の印象

（半）中国ですが、商売で行った。何と言っても、非常に広いということです。

（司）対日感情はどうですか

（半）広東から汽車で漢口長沙、鄭州の方迄行きましたが、対日感情は想像以上に悪くない。しかし本当の事を言っているかどうか。外国人に物を言う場合、意識して仲々本当の事を言ってくれない。扱いは、丁重ですがね。モンゴルは経済使節団の一員として行ったが今迄日本から行った人は10人も居ない。ウランバートルへは北京から週2回出ているモスクワ行の特急で行くのですが、モンゴルの印象は一言で言えば草原ばかり。困ったのは言葉。英語駄目、日本語駄目。公用語はロシヤ語だけ。食物も羊肉が主ですが固くて食べられません。

（司）アメリカはどうですか

（半）サンフランシスコやニューヨークも訪れましたが、私の一ヶ月滞在したワイオミング州には日本人は、滅多に行かない。映画等で想像していましたが、本当に荒涼たる所です。車で何十キロ走っても誰も居ない。鹿やアンテロープや野羊ならワンサと居る。のんびりしていて自然の雄大さには打たれました。今思い出しては何か救われた気持になります。

（司）人口密度は？

（半）町が有るんですが、人口が3人とか。1人というのが有りました。電話の機械を設置した建物に1人だけ通勤して来る（笑）とにかく生物は幾ら走っても野生の動物以外何も見えない。圧倒されるものを感じました。

（司）印度は如何ですか

（西）日本で想像していたのと、全く違っていました。まず宗教的な観念が生活の中にしみこんでいる事。身分制度があって身分の上の人は贅沢、下層は惨め、中間が育たないんです。金持は世界的な物を欲しがるし下層はデパートの物も買えぬ。女性は結婚すると外に出ません。8年間で外に出たのは1回きりと言う人が居る。黒いヴェールを被って、写真をとらせない。話しかけても逃げますね。

（司）岡田さんどうぞ

（岡）私の場合色々な所を少しづつ見て来ましたが船で香港・マニラ・サイゴン・シンガポール・コロンボ・ボンベイ・カイロと廻ってヨーロッパへ入ったんです。アジアでは日本が凄く進んでいると感じた。欧州に入った途端その違いをまざまざと見せつけられた。人々の生活態度や道徳心が宗教的なものの上に育っている。特に道徳の面では残念ながら日本は後進国です。

◆外国人の日本人観

（司）日本人をどういう風に見ていますか？

（岡）イギリスの辞典では日本人は物真似をして悪い商品を売る国民だと書かれていると大使館で話を聞いたが、旅行者は非常に丁寧に扱ってくれるし日本に対する興味も持っている。けれどもどの国でも共通しているのは正しい日本観が無いと言う事。ポスターでも、富士山・芸者・農民といったものでこれは日本自身の責任ですね。

（井）アメリカで日本人が行かない片田舎で、子供達がここへ来る為に特別のヘアスタイルを作って来たのだろうと言う。これが普通だと答えても信用しない。女性は昔の姫君の様な長い髪、男性はチョンマゲだと考えている。教科書に出ているんです。貴方達は毎日田で忙しいだろうが何時間働くのかと真面目に聞くんです。

（司）テレビのララミー牧場に出てくる日本人も変な着物を着ていますね。

（井）日本へ行った人から日本人は移動式風呂に入ると聞いたと言う。行水のことなんです（笑）紙の家だから家の中では火がたけないだろうとか。日本が理解されている様に我々は考えますが特に地方はひどいですね。

（司）アメリカでそれだから迄行って日本の紹介をする余裕等無さそうです。

出席者（席順）
岡田（井上）貴代江―五期　35年8月→11月日本青少年海外派遣　東南アジア8ケ国ヨーロッパ・ドイツ・フランス・イギリス・イタリア等8ケ国
井上絹子―九期　37年6月→8月　ガールスカウトカウンセラー　家庭生活体験　アメリカ主としてワイオミング州・テキサス州
半林亨―五期　38年8月→39年1月　日綿実業化成品部より社用で派遣　中国・モンゴル・香港・台湾
西沢澄子―九期　38年9月→11月　日本青少年海外派遣　印度・パキスタン・ネパール・南ヴェトナム等8ケ国

（司）日本人の場合色々な所を廻って来ましたが、ウランバートルは西欧式の立派な街です。道は御堂筋より広く七階建のビルが並び電線は地下ケーブル。堂々たる労働者アパートが並んでいる。資材は中国の援助、コンビナートにはソ連の技術を入れ、借り物だけど建設途上だから仕方無いと思います。

（西）先程の日本への認識不足の問題ですが、印度あたりの大使館では日本から来る旅行者の接待に追われて、とても田舎迄行って日本の紹介をする余裕等無さそうです。リカ兵があれ程沢山来ていてその状態なのだから。その点中国ではどうだったですか？

（半）中国・台湾・香港の日本に対する考え方は自分達より秀れているという気持が強い。中国人にしても日本とは昔からつながりがあり、上から圧力がかかるにしても、大衆は個々の考えを持っていましょう。現に香港・台湾では日本の商品が多いですよ。モンゴルは陸の孤島で交流が無い。人種的には日本人に近いと言うが。行く前はホテルの窓から狼が見えるというう話だったが、ウランバートルは西欧式の立派な街です。道は御堂筋より広く七階建のビルが並び電線は地下ケーブル。堂々たる労働者アパートが並んでいる。資材は中国の援助、コンビナートにはソ連の技術を入れ、借り物だけど建設途上だから仕方無いと思います。

（西）先程の日本への認識不足の問題ですが、印度あたりの大使館では日本から来る旅行者の接待に追われて、とても田舎迄行って日本の紹介をする余裕等無さそうです。

学校の授業を参観したが日本地図がさかさまになっていたり教科書も誤ったものが多い。それと乞食が多い。病人が汽車に群がってお金を呉れと言う。

◆貧富の差　アンバランス

（岡）ボンベイなど街は立派なんですが、街路でカンテキでものを炊いている。一方では奇麗な女性がサリーを着てサーと歩いて行く。狐につままれた様な感じです。

（司）アンバランスなんですな。

（半）その点中国は徹底していますね。政治体制のせいか7億の人民が整然と統制されている。例えば人力車やホテルのボーイは絶対チップを取らない。人間だから欲しいでしょうがね。体罰がきつく泥棒も殆んど無い。かつては中国も印度と同じだったと思います。ハイクラスは居ないが中産階級で平均している。印度も体制を破ろうと思えば今の様な事をしていては駄目ですね。

（岡）東京に帰った時羽田から東京への道筋が非常に汚く感じられた。サイゴンでも表は美しいニレの木の街並なのに一歩裏へ廻れば汚いのなんの。あまりに差が激しくて驚きました。

（司）オリンピック期間中は東京でも汚い所に囲いをしていましたね（笑）

（半）資本主義の下ではアンバランスは仕方無いと思う。嫌なら社会主義体制にならざるを得ませんね。

（岡）貧富の差ですが、ヨーロッパは激しくありませんね。日本も成長して行けばやがてあなるんでしょうが。アジアからマルセイユに着いた時正直ホッとしました。自分もアジア人ですがこなら安心出来るという感じですね。

（西）ホテルでボーイがチップと言って帰らない。品物は要らぬ、金をくれと言う。団長がまとめて払うと言うとまとめては困る（笑）

（司）終戦直後の日本を思い出しますね。東南アジアでは慢性の飢餓状態が続いているのですね。

（西）印度は賃金は安いが生活費も安いんです。一日二ルピイ百五拾円で生活出来る。工場主が四ルピイ渡すと翌日は休むんです。全体にのんびりしている。踏切も20分前から降ろして鍵を掛けておく。通るのは貨車が五台（笑）日本人では生活出来ませんね。人口が四億五千に対し牛が二億八千いる。牛は神様で街には車、牛、ロバ、犬、人がゴッチャに住んでいる。牛の糞と藁で燃料を作り家の壁にベタベタ貼って乾かす。

（司）汚いと思わんのですかね。

（西）そりゃ神様ですものね。働いているのが皆男性。日本では女性が働いているので不思議がります。真黒な男性が御飯持って来たら、手を洗っているかと思って気持が悪い。

（半）日本人は幸せやね。結局人間が多過ぎるんですね。その人間が働けば凄いものが出来ると思うな。中国ではそれをやっている。

◆家庭生活と社会教育

（司）アメリカの家庭生活はどうですか。

（井）西部の中流家庭で一ケ月生活しましたが、子供四人で父が石油会社の技師です。年間の計画をガッチリたてて、家族全体で楽しむという感じです。お金を貯めて家族旅行をするんですが、食糧・コンロそれに犬迄車に積んでホテルは素通り。子供達はスリーピングバッグ、お母さんはテントお父さんは車の中で寝る。星は美しいし、大自然の中で伸び伸びした気持を与えます。近くでインディアンが集まってお祭をやっています。太鼓の音が聞えて来る。自然の中で質素ながら幸福な生活を営む。それと身分に応じた生活ですね。服装も質素で木綿のGパンやブラウスばかり。靴も修繕して使う。それが当然だと思っている。人をひがまず自分の生活のペースを楽しんでいます。もう一つ、アメリカの婦人は少し余裕が出来ると社会に尽くす考えがあります。子供の世話やタイプを申し出て、自分の出来ることで社会に奉仕する。中流の奥さんのそれが普通の生活です。ガールスカウトのリーダーもお母さん方がやっています。

（司）心にゆとりがあるから出来るんですね。

（岡）ヨーロッパでも休日には家族旅行をしている人達によく出会います。社会奉仕の点でも生活に余裕が有るだけで無く、何か国民性の違いと言ったものを感じます。風俗習慣の違いも有りましょうね。

（井）日本の母親は自分の子供の事は一生懸命だが他人の子には、無関心です。向うでは家庭生活に社会教育の必要が認識されている。殆んどの家庭が子供をボーイスカウト・ガールスカウトで教育して貰っています。

（岡）日本では団体に入っている子供、社会教育を受けている子供が欧米に比べ少ないです。

（井）アメリカはレディファウストの国だから、どんなに親切にされているか見たかったのですが、女性も親切にされるだけの事をやっています。子供の教育や躾に責任を持っていて、奥さんの地位が大事にされるだけのことはあると思いました。

（岡）ヨーロッパでも子供の教育は厳しい。ドイツで五才位の男の子がバスに先に乗ろうとして、レディファウストと母親にお尻をピシャリと叩かれているのを見ました。旅行の時も小さな子供が自分の持物をチャンとバッグに入れて持って行く。子供の時に、厳しいんです。

（司）中国の青少年はどうですか。

（半）学校は子供の数が多いので苦労しています。経済的に豊かでないから学校が足りない。大体が二部制、三部制もある。子供が可哀想ですが義務教育で中学迄無料、それ以上は奨学金を出しています。モンゴルも矢張り無料です。大学を出て優秀な者は、モスクワへ行く。中国も以前はモスクワでしたが今は英仏へ留学しています。それにしても日本人は立派だと思う。何も卑下する必要はない。特に工業技術の面ではね。唯精神的な面は考え直さねばならんと思う。

◆宗教や道徳心

（岡）宗教は？と聞かれるのが一番つらかった。無いと言ったらおかしな顔をするんです。どうして神を信じないのか。日本人が宗教無しで済ませる事が不思議だと言うんです。

（井）家が仏教、姉がキリスト教の学校と言ったら目を白黒していました。

（西）日本では日常の生活

「箕面一中物語」(一)

不敵を誇った我大日本帝国も昭和二十年八月十五日敗戦と言う思ってもいなかった結末でその幕を閉じた。これを境に世の中は大きく変貌を遂げた。この事は教育という面も例外で無い。新憲法が発布され教育基本法の制定に基いて六・三制の教育が義務づけられた。

我箕面一中もこの時、大阪府豊能郡学校組合立箕面中学校として、二十二年四月一日その歴史の第一歩を踏み出したのである。

校長は現校長の友広芳夫氏を迎え、旧箕面村、旧萱野村の小学校卒業生を収容して同月二十日に正式に開校した。開校したものの満足な設備等あろう筈が無く、旧青年学校校舎と小学校の東館を借りての開校であった。これでも足りず生徒は新校舎が出来る迄、二部授業という不便を忍ばなくてはならなかった。物資欠乏と来たら全く話にならず、実験道具、ピアノは言うに及ばず、ノートに宗教がない。

(岡) 向うは教会という場があって、宗教を通じて学ぶ事が多い。一種の社交場にもなっています。

(井) 教会へ一緒に行ったんですが、仏教の人が来たのは始めてだからサインしてくれとせがまれた(笑)仏教に就いて日本に就いて実に詳しく聞かれました。自分の考えを聞かれるんです。外国に行く時はその国の事より まず自国に就いて深く勉強せねばと思いました。

(西) 宗教の事が一番嫌ですね。一日何回お祈りするのかとか、儀式はと聞かれたり。

(岡) 産業面、文化面では自信を持ったが、日本人がそれを何処迄自覚しているか。ヨーロッパでは歴史や文化を誇りにしてしかもよく知っている。街の文化でも建物の事でも誇らしげに説明する。日本の歴史、文化は例えば奈良の国宝など素晴らしいと思う。もつと自分達の国に就いて誇りと自信を持つことです。道徳心が低い。帰国したばかりで電車の中でも平気でツバを吐いたりするのを見ると嫌になりましたね

(司) 日本人全体の弱点ですね。戦後、如何に生くべきか、価値は何かという事に就いて確信が無い。

(岡) ヨーロッパはいい意味の個人主義が徹底している。日本人は心の余裕が無いのでしょうか。あちらは店もデパートも日曜は、教会へ行くから休み。土曜は昼迄。国によつて夜の閉店時間が決まつている。生活態度が身についているんです。国民性も有るでしょうが。

(司) 日本人は日曜迄働いていますね。

(岡) 彼等も働くには働くがエンジョイすることが上手。余裕が有つても、日本人は使い方が下手です。その点羨やましい。

(司) 印度はどうですか。

(西) ヒンズー文化は水の流れに沿つて生れて来ました。河に石場があつて死体を焼いて流してしまう。同じ水を飲料水にする。祖先の伝来だから当然の事なんです。

(司) 宗教に就いて他国と日本との違いは、日本人の場合話の筋道だけを追つてそこに盛られている精神を度外視しているんですね。

(岡) イタリヤの場合、共産党とカトリックが同居していて少しも矛盾を感じていませんね。

◆各国の国民性

(司) 人種問題は？

(井) 少しか見ていないので全体的なことは言えないが、理屈で判つていても代々軽蔑する気持からどうしても一緒にやつて行けない。黒人が一区画に住むと土地の値段は下るし学校もシャットアウトする。理屈でなく事実行儀の悪い人が多い。立派な人も中には居ますが。

(半) 人種差別の意識は白人の方が強い。イギリスあたりはアジア人種に対する、プライドが高過ぎる。自己中心的な考えが強く、世界の進み方に逆行している。イギリスの政治的、経済的立場が弱くなつているのが原因です。

(岡) 大英帝国の夢が忘れられない。バスに乗つてもガイドは世界中の人が英国の歴史を知つているのが、当り前と思つている。つまらぬ質問をしたら馬鹿にするんです。フランスもイギリスと共通点が有る。日本が見習わなくてはならぬのはドイツです。同じ戦争の被害を受けても力強いものを感じる。若い人でも凄く自信を持つている。食物と体力が全然違う。ゾウリみたいなテキをペロリと平らげる。圧倒されますね。日本人は負けます。

(半) 数でいかんと仕様が無いですな(笑)中国などそうですね。大衆のエネルギーは凄い。普段は質素なものを食べています。飛び抜けた生活は出来ないが最低は保証されていますね。社会体制の問題です。

(司) 向うで困られた事。

(半) 外国へ行つて病気になつたら困る。

(岡) 技術料が高いんです耳を一寸やつて四千円。薬は別ですよ。

(井) うるしと言つてるのにアセモと言われ、顔に真白な薬を塗られてホワイトハウスへ行きました(笑)

(半) 中国で一人倒れましてね。全部タダ。外国人だと言う事もありましょう。私はモンゴルでウオツカを飲まされて下痢をしました。白系ロシヤの美人の医者が来てくれましてね。

◆外国を理解する為に

(司) 最後のしめくくりとして、自分自身にとつてどういうプラスになつたかと言う点で。

(井) 最初はどんなに困るかと心配したが生活してみて当然の事ですが、人間つて国が違つても、結局同じだなあと思いました。政治の上では争つても、もつと皆が一つになつて平和を願えばいつかはもう少し良い世の中になる筈です。日本の良さが判つたから誇りと自信を持つて行きたい。

(岡) ヨーロッパは一つです。隣へはすぐ行けますから国同志が理解し合うのは簡単です。でも日本への認識は低いからもつとひんぱんに往来する。ペンフレンドの様な小さい事が実を結びます。一人だけの行為から全体を判断せず、お互いに普段の生活を見せあつて話し合えば理解出来る。一人でも多くの人が行くことです。

(半) 往来を盛んにすることです。世界平和は政治的には難しい。だが経済関係では仲良くして行ける。中国と日本の関係は商売のお陰です。米中関係は想像以上に悪い。ケネディ大統領が暗殺された時、丁度北京に居ましたが人民日報に漫画で出た。道義の重んじる国民のする事でないと我々も憤慨しましたが、国と国とは抜き差しならんのです。商売でも文化でも糸口をつかんで互いに往来する。教育関係でも先生方が交流されれば子供達の為にも良い。外国を見聞してどんどん子供に教えてやつてほしい。

(西) 南ヴエトナムへ行つた時、丁度サイゴンでクーデターがあつてものものしい状態だつた。鉄条網が張られ軍隊や警察の支配下で生活している。政府直轄の共和青年団が色々な所を案内してくれたが、とにかく普通の生活が出来ない。言論の自由が無い。三人集まれば警察に睨まれる。学生達は落着いて勉強も出来ない。自分達がみじめで日本人は非常に幸せだと言う。そういう状態から日本へ帰つて来て、そんな社会の中で自ら闘つて未来の生活をかち取るのが幸せなのか。今の我々の様に何も気にせずに、その代り何の目標もなく生活の為に生活して行くのが幸せなのか疑問に感じた。日本と南ヴエトナムは同じ東南アジアで、ありながら随分違うと感じた。日本人は幸せだと思う半面、何の変化も無い目標も定まらない現在の生活に充実感が欠けていると感じました。

(司) 有益な話を聞かせていただいて有難う御座居ました。時間も長くなりましたのでこの辺で。

モンゴルの女学生に囲まれた半林氏(中央)

(恩)(師)(健)(在) その①

芸大へさらに勉強、一時大高一、下が中二だとか、積水の重役夫人としてお元気にお暮しとのことです。

☆尾崎(杉中)光先生

(井) 最初はどんなに困るかと心配したが生活してみて当然の事ですが、人間つて国が違つても、結局同じだなあと思いました。政治の上では争つても、もつと皆が一つになつて平和を願えばいつかはもう少し良い世の中になるとうそうでもない様子でした。

☆藤井　浄先生

久保田鉄工で、御活躍とのこと。風の便りに聞きました。

あちらでチラリ、風の便りにお聞きし、懐しく思いだしています。

そうして、何か見えない糸でつながつているような感じがするのは、私だけだろうか。たとえそうであつても、私はかまわないと思つているんです。

いつどんな時でも、お元気でやつておられるということを聞くことは、心楽しい、豊かなものを感じるからです。

(S M生)

(第2号に続)

箕面中学時代、今の一中時代に教壇に立つておられて、教育界をしりぞかれて、教育界の消息というものはおもしろいことに、いつも一定のルートで流れてくるようだ。最近私が耳にしたり、また会つて話しあつた先生方のようすをかいつまんで知らせしておきましょう。

☆黒沢(川浪)坦先生

創立時にはいりになつて、箕中の新聞部をつくり、またソフトボール部を育て箕中運動クラブの基礎を作り、はじめて府下での優勝に貢献された先生だが、今はお子さんも二人、黒沢電気KKの専務さん、でもあいかわらず、細く、あの身体で良く続くなあと思うほど、東へ西へととびまわつておられます。

☆植村　勉先生

ターザン先生、いつも笑顔を絶やさず、今もかわらないとのこと、黒沢さんにいわすと、会おうと思うと一苦労、電話で行先行先をおさえないとだめだとのこと、電気関係の工事をする会社の社長さんでがんばつておられます。

☆梶谷　信男先生

小学館「小学四年生」の編集長、デップリこえて、堂々たるもの、東京で電話しても、いつも会議、会議で疲れを知らぬように動いておられます。

☆山口　忠男先生

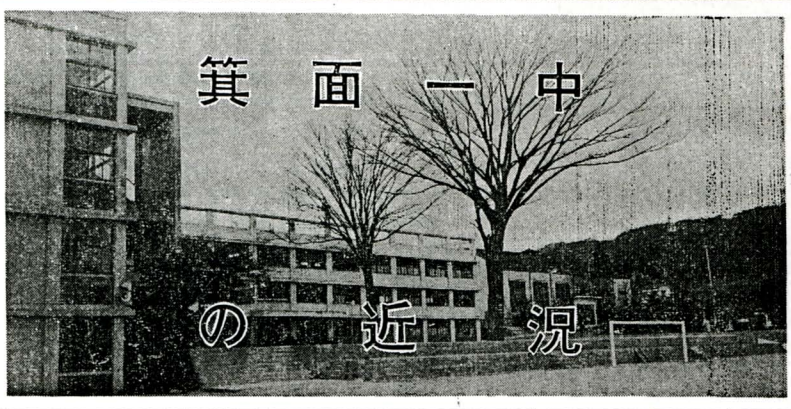
箕中におられて、上野のリやつて、おられるそうでつてこられるとのことです。私も最近とんとあいませんから一度お伺いしようと思つていることを聞いて、喜んでいます。

☆得丸(逸水)初枝先生

☆中島(久保)美奈子先生

スラリと美しい方だつた。今はうえのお子さんが生れやつてやつてほしい。

(第2号に続)



まず校門から入っていただこう。かつての棒ぐいの校門に変る立派なコンクリートの塀と鉄製扉。そう言えば、学校をとりまく金網とブロック塀も大したものです。（何しろ昔はどこからでも入れたからね）運動場も大きく拡張され、運動各部はもとより、休憩時などに大いに活用されている。欲を言えば、新たに拡げた部分の水はけが悪いことであろうか。

校舎の方は、普通教室二十四、理科室、家庭科、技術科、美術教室、図書室、音楽教室及び救護室、校長室、職員室、校務員室、それに各階の水洗便所からなる。かつての板張りのバラックで雨漏りを心配した諸君には、大変申訳ないがまさに天国と地獄である。もっとも住んでみると何分の不足や不便さは生れてるもので、物置きとか、床板がとか、はては便所の水がとか、これまた大変です。

校長室には初代友広芳夫校長に生き写しの三代目友広芳夫氏が鎮座ます。昔の面影そのままに、と人はよく言うが、面影てなもんじゃない。この人ぐらい変らん人も珍らしい。特徴ある塩ゴマ頭（ゴマ塩の誤植じゃない）やや、背を丸め、時々頭を上げる歩き方もそのまま。（頑固さも相変らず―失礼）昭和三十八年度には文部大臣表彰を受けられ老いて（？）ますますサカンな活躍をみせられている。

元勲的な先生方もいっしかその数が少なくなり、教頭田中先生、音楽の巨頭尾西先生が創立以来というだけであるが、これに続く万年青年加藤先生、バレーの鬼　植山先生、器用さで定評ある重藤（岡本）先生がゼントルマン高島先生、フアイター平岩（田渕）先生輝やかしき井沢先生、これまた万年青年勝川先生、ジャイアント村田先生と多士済々だ。オット永久の美しさの紅一点大沢先生を忘れてはならない。号令一つで身のちぢむ思いも懐かしい福原先生やカン高く運動場一ぱいにひびいた尾田先生の声が聞けないのが寂しいが、期の新しい諸君にはますます黒さをます粉川先生や、ノッポの平通先生、全く対称的な西山先生などの健在もお伝えしたい。

現役の後輩生徒諸君に眼を移そう。ここ十年来、高校への進学率は常に九五％を下らず近年特にその傾向が強い。進学先は、池田高豊中高、宜真高、梅花高などが多く、最近では箕面市内の府立高校としての箕面高も多い。ますます深刻さを増す入試地獄に立ち向っていく努力は大変なものだと空恐しささえ感じるが、幸いにして（無責任な表現をお許し下さい）府下有数の立派な成績を治め、昭和三十九年度には、優秀校として、府より表彰されている。毎年行なわれている府学力テストの結果も極めて優れ、北摂の一角に箕面一中ありとの名を高めている点、先輩諸氏も誇りに思っていただきたい。

クラブ活動の盛んなことこれまた有数とかつて聞かれたことと思うが、残念ながら近年はやや低調と言わざるを得ない。勿論各クラブ共熱心に活動し、文化祭にみられる文化各クラブの発表など〝これが中学生か〟などの声も各所に聞かれたが、反面こつこつと平素から積み上げた成果を、とかく言うた裏山も、今は、ブルドーザーが、そしてダンプカーが、土を堀ってはどこかへ運んで行く。緑の中の校舎が、土ぼこりにまみれ、登下校の生徒は死にもの狂いの交通戦争の中を右往左往する。いやはや、これも変ったものの一つである。

何だか愚痴っぽくなってきたようだ。結局の所、箕面一中も他の社会と同様に大きくゆれ動きながら今日なお盛んに成長しつつあると言えるだろう。庭の樺が一つ年輪を加えるたびごとに、校舎も、生徒も、同窓生も一つ年令を加えているのだから。

末筆ながら乱文のお詫びと共に同窓生諸兄姉の活躍を心からお祈り致します。

（池田生）

同窓生の数も本年度の十八期生を加えて五、八四二名をかぞえ、道で会う立派な紳士や子供連れの奥さんなどと言われると、改めて〝樺（けやき）を見上げてそうかなあ〟と思う。十年一昔というが、箕面一中（もと箕面中学校）が誕生したのが、すでに二昔前ということであってみれば、変るのが当り前ともいえそうだ。

創生期のOB・OG達が昔懐かしい箕面小学校の校舎を引きはらい、新稲の現在地に移ったのが十五年前、プールが出来たのが十年前火災によって校舎の大半を失ったのがもう四年も前のことと、並べてみると全く〝光陰矢の如し〟とはよく言ったものである。

「すっかり変りましたなあ」とか「立派になりましたなあ」などと言われて、「立派になったなあ」と思う。十年一昔というが、箕面一中事を改めて感心してみたりするのである。

それではここらで、その「立派になった」校舎をご紹介しよう。紅葉ガ丘の一角にそびゆる白亜の殿堂―鉄筋四階建（一部三階）―の新校舎はかつて馬小舎の異名をとったボロ校舎の片鱗すらうかがい得ない。遠く生駒や大阪湾を望み、箕面主要部を脚下に、通勤ラッシュや観光客の波を低く見下すまさに戦国の大名の気慨を彷彿させるものがある。

同窓会から

〝会報によい名前を〟

箕面一中同窓会報と名付けて出版された当会報も、私達会員自身の手で今後益良いものに育てていかねばなりません。この会報に素晴しい名前を考えて同窓会宛にお知らせ下さい。採用の分には薄謝を贈呈致します。

〝同窓会々名〟募集

本同窓会は発足後十数年、会員も五十八百人の多きを数えるに至りました。時代が違っても変らぬ校風、豊かな環境、そんな共通の学び舎で育った私達の同窓会にふさわしい名前をつけたいものです。同窓会では、皆様からの御意見をお待ちしております。ふるって御応募下さい。尚、採用の分には薄謝を贈呈致します。

〝原稿募集〟

本会報は凡ゆる面で広く会員の皆様に御活用頂ければ幸です。クラス会便り、その他どんな原稿でも結構ですので係までお寄せ下さい。次号は四十一年三月に発行の予定です。

同窓会員名簿（38年版）が若干残っています。一部百円です。郵送御希望の方は送料共百四十円を同窓会へお届け下されば発送致します。尚次号は四十二年に発行の予定です。

＝編集後記＝

◉発行への足どり
10月4日　母校運動会に参加して初顔合せ
11月10日　編集方針決定
12月6日　座談会開催
12月26日　テープレコーダーより集録
1月9日　同最終集録
2月21日　原稿整理
3月21日　ゲラ刷で版組みお寄せ下さい。次号は四
3月27日　印刷所へ渡し
4月11日　全会員に発送

◉創刊号は座談会に重点を置いて編集した。司会をして下さった植山、池田両先生の好リードで、出席された四人の方がユニークで有意義な話を談論風発で聞かせて下さった。いささか手前味噌になるが、最近こんなに内容のある土産話を聞いたことはないし、同窓会の集りとしても実（み）のあるものだった。全部集録したつもりである。

◉編集の上で池田、岡両先生に始めから終り迄お世話になった。紙面を借りて厚く御礼申上げます。又発送の際の宛名書きに至る迄、多くの委員諸氏の御協力を得た。名簿もそうだが何事によらず、一つの事業をやるのに数多くの蔭の力がある事を心に留めて欲しい。

（小菅記）

編集に参画した人
(4)岡田保造・荒木啓雄
(7)久原敬吾　(8)中西良之
(11)本持純・数井敬司
(12)山崎雅弘　(13)畠中誠二郎・桜木玲子・世良浩
(14)友広清志・乾信一
(15)名出庸雄　(16)木下哲夫
(17)寺田洋一　(3)小菅淳平

かなづち奮戦記

松山三郎左衛門

先日用事があって上京したおり、箕面中学時代の教え子のA君とたまたまあって、一杯飲む機会に恵まれた。その時「先生、箕面中もすっかり変ったそうですね。」と聞かれた時、私は一瞬とまどった。『一体何が変ったのだろうか。』と…「別に……。」「でも校舎がとても立派になって、ギシギシという木造校舎がなくなったと聞いていますよ。」という。しかし私が変っていないなあと思ったのは中味のことだ。先輩たちが作っていった箕面中の伝統というのか、校風といえば良いのか。何か身についたものを持っているように思えるのだ。それが、これこれのものだと私にはうまく言えないのが残念だ。

昔のことを思いだせば、私も若かっただけに随分と無茶をしてきたものだ。今にして思えば教師として風上にも置けない奴かも知れない。放課後、山の池に泳ぎにいったりして、教師だか、生徒だかわからない。友広校長におこられたことも、今にして懐しい。名前を伏せておかないとおこられるので、かりにC君、D君としておこう。

C君が受持ちの生徒に甲子園の浜（その当時はまだ海水浴場だった。）に泳ぎち青竹がめりめりいいだしに連れていって欲しいとせて、あきらめてしまった。あきらめないのはC君。「どうにかなりませんか。」C君のいつもの真面目な口調だ。なんとか短時日に泳げるようになる方法はないだろうかと相談をうけた私とになったぞとばかり顔をは、D君と二人して相談、でも四日や五日で泳ぐようになるなんてとても出来そうにない。とうとう思い余って、漫画に良くでてくる図だが、魚釣りの要領で胴体をロープでしばり、青竹にぶらさげて岸をあるけばいいだろうということになった。善は急げ！その日の放課後、山の池にいき、早速実行にとりかかる。悲しいかな！漫画のようにはうまくいかない。私とD君で青竹を支えているのが精一杯、あるくどころではない。池の中でC君は手足をバタバタさせ、真剣な面持で、「早く歩いて下さい。」と言うが、D君と私は顔を見合わせるばかり、そのうち青竹がめりめりいいだして、あきらめてしまった。

C君は勢いよく池にとびこんで、すさまじい水煙をあげる。苦しくなると魚のはねるのと同じ要領でとびひっぱる。鼻をつまんだC君が、丸太棒よろしく、真横のままひっぱってこられた。岸にいる二人はおかしくてたまらない。しかし、笑うわけにはいかない。まじめな顔をしたC君は、哀願に似た口調でたのむから仕方がない。そうしているうちにこちらも必死だ。あだ。こうだ、と岸からコーチ？三日後にはロープなしで泳げるようになったからたいしたものだ。私なん見合わせて、しばし考え、第二回にとりかかった。その方法は、胴体をロープでくくり、C君が沈もうがどうしようが、手足を動かしに昔のことだとは思えないのに――。

今だったら、こんなことをしようものならたいへんなことだ。時代が違っていたのかも知れない。こんな教師に教えられた生徒たちが、どう育っているんだろう。全く自分ながらはずかしい。

こんなことをしながら、私は箕面中学に育てられてきたと思うことがしばしばだ。だから卒業生の諸君とあっても、教師と生徒ということでなく、同じように三本の樺で育てられ成長してきたことを感謝している一人だ。

（現箕面二中教諭）

そこには到底まねのできないことだ。これが友広校長にしれてお目玉頂戴。あれからすでに十五年ほどの月日がすぎてしまった。そんなに昔のことだとは思えない